

丘会は「人口論研究六十年を祝う会」を計画し、その推進役の中心を務められたのが大谷先生だった。

祝賀会当日、発起人を代表しての開催に至る迄の経過報告、南先生の学問的業績、母校に対するご功績等を余すところなく称えたスピーチは、強く印象に残った。

この祝賀会の成功は、緑丘で南先生の教えを受けた者なら誰の胸にもあったであろうもやもやしたものを払拭して呉れたし、南先生もこの時初めて緑丘会館を訪ね、大勢の教え子に囲まれ、お氣持が晴れたことと推察する。

大谷先生は、このお祝いの成功を心から喜ばれ、ご満足の様子だった。

この南先生のお祝いのあと、次は大谷先生の米寿のお祝いであるという気持は、以心伝心大勢の人の胸にあったし、緑丘会員何人かの口からも出た。

ところが、南先生祝賀会成功の喜びも束の間、南先生はこの後五カ月足らずで急逝された。大谷先生は大きな悲しみの

中にも、早速南先生の追想集の刊行を思い立ち緑丘会会員を中心に呼び掛け、元母校学長長谷部亮一氏のお骨折りによって「わが生は人口の学に明け暮れて」が完成をみた。

この原稿を書き初めて幾日か経った時、南先生の追想集を計画していた頃、大谷先生からいただいたはがき（昭和60・7・24付）が偶然出て来た。それは「……おかげで体は無事、その後中国の大学から貿易経営、経済の学者グループ二組来朝してそれぞれ二日に渉る研究報告質疑応答の会合あり、その中間に所要で札幌、旭川へ旅、老来情けない生活です。来る月曜日（二十九日）南先生の集り、拝眉をたのしみにしていきます、祈御自愛」というもので、「南先生の集り」というのは追想集刊行の打合会で、先生が極めて多忙の中寸暇を割いてのことである。しかも先生の白内障は相当亢進していたようで、印刷物等見るとき、大きな拡大鏡を使っていた。

その後白内障の手術を受け、この方は大

したこともなく済んだようであるが、更に前立腺肥大症の手術をされた後遺症が続いて、急にお年をとられた感じとなった。

大谷先生の米寿祝賀会の計画が具体的に持ちあがったのは昭和六十三年夏のこととて、この世話人の中心は金垣英雄氏（昭和十三年卒）、寒くならないうちに一日も早く実行したいとのことで、祝賀会前に大谷先生にも二回緑丘会館までお越しいただいた。

先生は緑丘を去って五十年近く経っていたが、もともと緑丘出身であり、緑丘関係者との接触は絶えず続いており、緑丘会、母校に対するご功績も極めて顕著であったことも広く知られ、緑丘が誇るお一人であったから、長く母校におられた先生と少しも変わらず、教え子は勿論緑丘人の心に生き続けて来たに違いない。かくて昭和六十三年十月十七日、先生の米寿祝賀会が、緑丘会館で開かれ、大勢の緑丘会員——特に先生とゆかりの深い卒業生——が出席した。この時の先生

のご挨拶はお体の不調の故もあつたらう、ただ「有難う」という一語に近かい短い言葉は、かえって出席者の胸を打つものがあり、感極まるという空気が会場を流れたと思う。

これが、私としては先生との最後となった。

先生は、商業英語を中心に、六十年に及ぶ長い間巾広い研究を続けられ、北海

道、東京、関西と若き学徒の教育に東奔西走情熱を傾けられ、然も教育一筋に偏らず経済界にも国際的にも活躍の領域を広げ、持ち前の博識と優れた見識を発揮されたことであろう。

先生は己れには飽くまで厳しく、他人には極めて寛容、学問に必死の生涯であったが、またこの上なく幸せな人生だったと思う。

再び平山牧師の言葉「……お幸せな方で、真に神と人とが結びつけられていた。神は知っておられる、先生御夫妻は神の前に凱旋したのである。……なくなってしまうのではない……」

大谷先生の御霊の安かれと祈りつつ。

（平成2・4・28記）

一つの奇縁

ルイス・フランク先生のこと

鎌倉 啓三
（昭和15年卒）

ルイス・フランク先生の名をご存知の緑丘会員は幾人居られるだろうか。また緑丘において同先生の教えを受けた卒業生はどれだけ現存しておられるだろうか。

「緑丘五十年史」によれば、L・H・フランク先生は大正二年四月一日から大正十五年三月三十一日迄母校に講師として在

任されたドイツ人、初代校長渡辺龍聖先生に招聘された。私は「緑丘」六十号に、大庭定男君の「戦中ロンドン日本語学校」を紹介する文章を書いたが、この日本語学校の中心人物フランク・ダニエルズ先生の夫人おとめさんのことを知りたく、朝日新聞マリオンの尋ね人欄に投稿した

ところ、これを見た保証誠という方から、大谷敏治先生に尋ねてはどうかとの電話を頂いた。大谷先生からは既にお話をきいていたが詳細はわからぬままであった。この時のご縁で、保証誠氏（元茨城大学工学部教授）からルイス・フランク先生についていろいろと御教示をうけたので

昭和二十一年の七日頃、東京の地下鉄電車の中で、先生にお逢いした。卒業以来初めてのことだったが、互いに急いでいたのか、ちょっと言葉を交したくらいで別れ、残念に思った。昨年十月、先生の葬儀に際し、東京外大名譽教授梶木隆一氏が、弔辞の中で昭和二十年春の東京大空襲を共々逃れて命拾いをしたと秘話を述べられ、電車の中でお逢いした一年少し前のことで感慨深かった。

昭和五十二年十月、吾々は卒業四十年に当り、箱根で同期会を開き、南、大谷両先生のご出席をいただいた(大野、木村両先生も御招待したがご欠席)。懇親会の席、吾々の仲間が思い出など語ると、大谷先生は、度々その話に関連したことを話され、記憶力抜群の予てからの評に応えるように面目躍如たるものがあつた。またこの時大谷先生は、曾て熊本県天草を訪ね、同地の有明町長を長く務めていた河内典次君(吾々の同期)の好意で各地を回り、特に隠れ切支丹の跡を案内して貰ったことを南先生に話された。南先

生は河内君がいるとは知らずに既に天草を訪ねていたらしく、両先生とも残念なことをした、と話していた。南先生が吾々の同期会にご出席下さったのは、これが最後になった。

次いで昭和六十年六月、同じ同期生旅行を京都・彦根方面に行かない、この時も大谷先生にはご出席をいただいた。京都では南禅寺の八千代旅館に泊り、翌日貸切バスで宇治の平等院を見、瀬田川沿いに琵琶湖方面へ向かったが、宇治は南先生の生家のあるところ、バスの中でこの話がでて、この年四月亡くなられた南先生を偲んだ。雨の中比叡山に詣で、彦根城を目の前にした井伊直弼が誕生したと言われる部屋のある楽々園に着いたが、大谷先生は都合で泊らずに帰られた。この旅行を先生は心から喜ばれ、楽々園で心情を吐露された挨拶には胸にこみあげられるものがあつた。そしてこれが大谷先生の吾々同期会ご出席の最後になった。

箱根の旅行のあと、大谷先生はこの同期会に南先生とご一緒して、学界のこと、

昔のことなど話すことができた喜びを感謝の言葉と共に印刷して旅行参加者全員に差し出されたようであるが、京都・彦根の旅については遙かに長い文字を列ねて、旅の感想、緑丘出身の幸せを記し、

最後を浜林先生に教わったというロバート・ブラウニングの詩の一節で結ぶという丁寧なものであつた。大谷先生からいただいた便りには、印刷したものには、必ずといっていい程一行から数行自筆の言葉が添えられ心を打たれた。このようなことは、大谷先生を知っている人なら誰でも心の中に残っていることであろう。先生が東京山手教会で執り行なわれた際、司式に当られた主管牧師平山照次氏(小樽高商昭和六年卒、大谷先生の教えを受けた。板垣与一さんの言葉をかりれば、緑丘四大メモリアルズの一人)が、式辞の中で、「……先生は人間関係を大切にし、教会に來られて帰るときは挨拶も決して形式一片というものではなく、感銘深い言葉が心に強く残りました……」と述べているのもその一端であろう。

大谷先生は、いつの頃からか帝人株式会社社長大屋晋三の顧問に迎えられ、非常な信頼を得ていたようで、役員待遇として、東京本社の中に一室を持ち活躍をしておられた。東京外大の教授を辞められたのも、私企業社長顧問の期間が長くなったためのものである。

昭和四十年、緑丘会は、日米開戦により、アメリカに送還され、不幸な別れ方を余儀なくされた旧師ミスタ・ダニエル・ブルック・マッキンソンを日本に招くことを決定し、この推進役の中心になったのが大谷先生である。これが実現をみたのは、計画から二年以上経過した昭和四十二年夏のことだったから、先生は随分心労が重なったことだろう。

昭和五十六年には、ミスタ・ジョージ・リチャード・ストリーが「国際交流基金」賞を授与され来日した。このイギリス人教師は、吾々が卒業後來られたので、緑丘新聞等を通じて名前を知っていた程度であつた。この時も大谷先生は緑丘会有志による祝賀パーティ開催の発起人と



なり、事実上の世話役をつとめたが、祝賀会当日、ミスタ・ストリー突然の発病により祝賀会は中止となり、その経過について、参加予定有志に詳細な報告書を送られた。ご多忙の中でのことで常人の到底できることではない。

母校は来年開学八十周年を迎えるという。南亮三郎先生が母校の教壇を去ったのは、今から数えれば大体その半分に相当する四十年くらい前だろう。大西猪之介先生が若くして亡くなったあと、経済原論を担当した手塚寿郎先生と共に、南先生は緑丘の看板教授だった。手塚先生は戦争中母校を去って余りたらずに亡くなられ、終戦後南先生も丘をあとにされた。この看板三教授は、奇しくも若くして亡くなられ、あるいは緑丘を去られた。大谷先生はこの三教授に直接、間接に深い関わりをもち、畏敬の念が強かった。そして南先生が小樽を去る約十年前の昭和十四年に東京外国語学校(現東京外大)に転ぜられた。こうした年月の経過があつて、南先生が米寿を迎えられると、緑

染色にも並大抵でない研究努力を傾け続ける、その矜持というか取組姿勢にただただ頭が下がるのみだった。しかし今はごく普通の浴衣地をみかける機会すら珍しくなった。いつ頃からか想い出す術もない。

ここで昨春訪れたウィリアムズバーグ

が浮かんだ。州のリード、援助で町並から教会、役所、店舗、レストラン、商品、料理に至るまでそっくり往昔の姿を再現しているようだが、観光客を惹きつけている理由は何だろう？

豊後節から常磐津、清元、新内が出たように優れた新曲の誕生、名人上手の出

現が待望される、となるとその通りに違いないが、同時に大変難しいことであろう。「発想の転換ならぬ」「転換の発想」が求められているのだろうか。

(一九九〇年・一月)

大谷先生追想の記

岡本 元次
(昭和12年卒)

平成元年十月十七日、大谷敏治先生が所沢市の入院先で急性肺炎のため亡くなられ、遂に不帰の人とられました。まことに哀惜に堪えません。

私は、二年、三年のとき大谷先生から商業英語の講義を受けた。苫米地英俊先生の著書「商業英語通信軌範」という辞書のような厚い本が一年から三年迄テキストとして使われ、大谷先生はこの重い

本を鞆を使わず腕に抱えるようにして教室に來られたと記憶する。

このあと(昭和十年頃)矢張り苫米地先生著「国際貿易活法」(前篇)が出たが、これは輸出篇、輸入篇から成り、実際の執筆者は輸出篇を木曾榮作先生、輸入篇を大谷先生が分担されたものである。

大谷先生はこの二つのテキストを基に講義をされ、歯切れのよい口調で、実に

明解だった。

小樽が高商の中で経済原論にかけては、高商の中で絶対權威を持ち、英語もまた同じであるとの評を耳にしていた私は、中村和之雄、浜林生之助、小林象三先生以下の英語の名講義と商業英語の講義とを合せ合せ成程という感を深くした。

三年前のとき、こんなことがあった。浜林先生の講義の後、大谷先生の時間と

なり、たまたま黒板に浜林先生が書かれた英語の単語が消されずにあった。大谷先生は、浜林先生の書かれた文字とすぐ気付いて「うまいですね、枯れた味とでもいうんでしょうか……」と、それをしばし見上げて感に堪えないといったふうだった。

二年生の夏休み、私は、大谷先生引率



米寿祝賀会における大谷先生ご夫妻

の関西旅行に参加した。総勢二十名くらい、その約半数は二年生で、人を知るのには旅が一番と言われるそうだが、この旅行を通じて今迄全く知らなかった大谷先生のお人柄に接し、いろいろなことを教えられ、忘れられない旅行となった。先生は「この旅行のスケジュールは全部進藤彰君(当時三年生)が作った」と言っていたが、先生とご相談の上であることに違いはなく、新潟、伏木、敦賀、神戸、大阪等港のあるところは敦賀を除いて全部港湾を舁で見学することができた。後年「緑丘」(藝目英三さん編集)で、海運人の集いという記事を見たことがある。確かそこには海運に関心の深い大谷先生も出席されたとあった。思えば緑丘人が海運業発展に尽くした功績はまことに大きく、同業界に築いた伝統、人脈には敬服する。そして海運といえは矢張りコレポン、特に国際貿易活法に綴りこまられていた船積関係書類その他が頭に浮かんで来て、大谷先生につながる。

さてこの旅行で、佐々木周一さん(当時三井物産船舶部長代理)等阪神の先輩が神戸の「平和楼」で、吾々の歓迎会を開いて下さった。大谷先生はこの席で「……これからアミューズメントと交通が如何にタイアップするかを学生に勉強させるために、宝塚へ行く……」と挨拶の中で触れ爆笑と喝采を受けた。これに先立って海運集会所を見学した。

昭和十一年十一月初めの頃だったろう、母校講演部主催の講演会が札幌商工会議所で開かれ、教授では南、大谷両先生が講演された。この時の大谷先生の話は、日濠貿易をめぐる経済問題が中心だった。先生はこの年の春から秋の初めにかけて、南太平洋、オーストラリアあたりを商船学校(現商船大学)の練習船、あの大型帆船で巡遊、この地域の経済事情や商習慣等調査研究に当られた。札幌での講演はこの旅行に於ける研究が基になったと思う。又この研究の旅が、大谷先生のこの広大な地域に対するその後の研究発展へのスタートとなったことであろう。

緑丘

- 第51回通常総会..... 2
- 80周年記念募金要綱きまるー募金運動開始近しー.....21
- 事務局だより.....24
- 随想・手記・短歌・俳句.....
- 英国の生んだ天才詩人、美術工芸家、
 社会改良家ウィリアム・モリスと私の人生.....西野嘉一郎...30
- ぺんぺん草.....大原 孫七...38
- 大谷先生追想記.....岡本 元次...40
- 一つの奇縁ールイス・フランク先生のことー.....鎌倉 啓三...45
- アメリカ、オーストラリア体験記.....林 利宗...48
- 近くて遠い国から遠くて近い国へ台北そぞろアラカルト.....立花善二郎...52
- 胃潰瘍の記.....荒 憲治郎...55
- 表紙「地獄坂の眺め」と武隈先生のこと.....平山 幹昌...57
- 商大第二期卒(昭29卒)のチャンピオン苜米地和夫君.....上光孝次郎...59
- 文房四宝.....松橋 玄光...61
- インド再訪.....大河平元久...64
- ブルガリア移住夢想の記.....岡崎 雄隆...69
- 伊藤整文学賞創設さる.....73
- 句苑緑丘.....78
- 追 悼.....80
- 物故会員.....85
- 緑丘往来.....88
- 学園だより.....98
- 支部だより.....111
- 同期会だより.....123
- 緑の紙風船.....127
- 会館利用日誌.....133
- 会員移動通知.....136
- 編集後記.....143

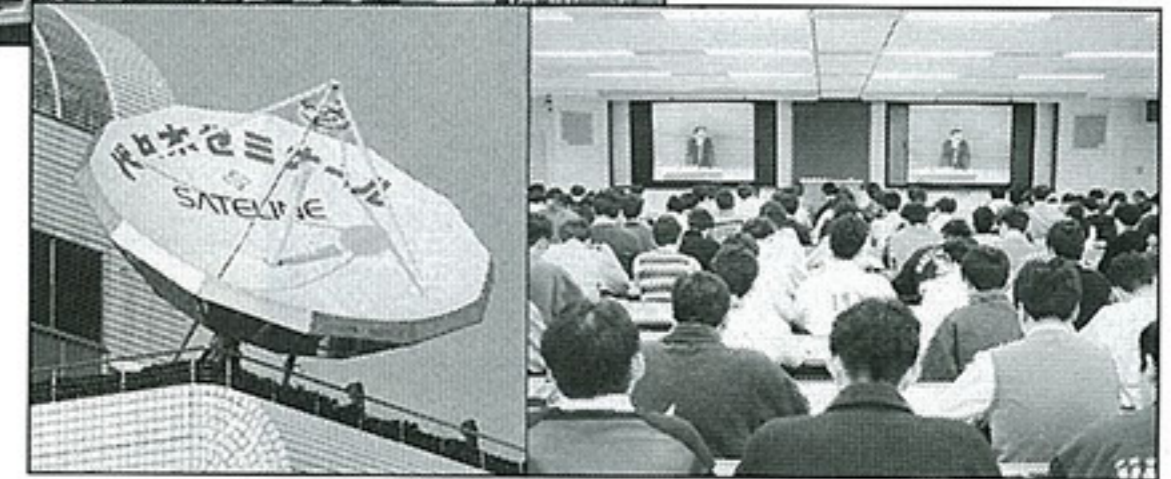


表紙画 平山幹昌 (昭28卒)

若者の無限の可能性を育てる。



代々木校



画期的通信衛星教育システムーサテラインゼミ

通信衛星の専用回線を使い、独自の設備と運用によって代々木校精鋭講師陣の授業を全国の校舎および高等学校へライブ中継しています。

理事長 高宮行男

副理事長 竹村保昭 (昭和24年卒)

代々木ゼミナール

代々木校 〒151 東京都渋谷区代々木1-27-16 ☎03(379)5221<大代>
 札幌校・仙台校・新潟校・大宮校・池袋校・千駄ヶ谷校・原宿校・立川校・津田沼校・
 柏校・横浜校・大船校・名古屋校・京都校・大阪校・神戸校・岡山校・広島校・小倉校・
 福岡校/造形学校(東京)・大阪造形専門学校/横浜アトリエ

緑丘



地獄坂より小樽港を望む

社団法人 緑丘会

緑丘 (第六八号)

平成二年七月二十五日

緑丘会東京事務所

〒170 東京都豊島区東池袋三二一-1 サンシャイン60(57階)
電話 03(981)1334



29
103

社団法人 緑丘会

GODO
コードの焼酎
合同酒精

飲めぬうまみです。ますますますます

ワリッカ・スーパーホワイト新登場。

ワリッカ

スーパーホワイト

20% 720ml 560円/1,440円 1,060円/25% 720ml 640円/1,440円 1,200円
希望小売価格(消費税込み)

飲酒は20歳を過ぎてから

代表取締役 野口正二郎(昭和10年卒) 常務取締役 栄坂章(昭和23年卒) 常務取締役 石井彰(昭和30年卒)
兼 経理部長 兼 財務部長 兼 監査役